

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 5 年 6 月 1 4 日	
島根県知事	殿
	提出者 住 所 島根県安来市安来町2107番地2 氏 名 株式会社プロテリアル 安来工場 工場長 岸上 一郎 電話番号 0854-22-1914
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社プロテリアル 安来工場
事業場の所在地	島根県安来市安来町2107番地2
計画期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	鉄鋼業
② 事業の規模	875億円
③ 従業員数	1,765名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別添 2			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別添 3		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別添 3		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別添 4		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別添 4		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 別添5		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 別添5		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） なし		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 別添6		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 別添6		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	（これまでに実施した取組） 別添7		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	別添 7		
※事務処理欄			

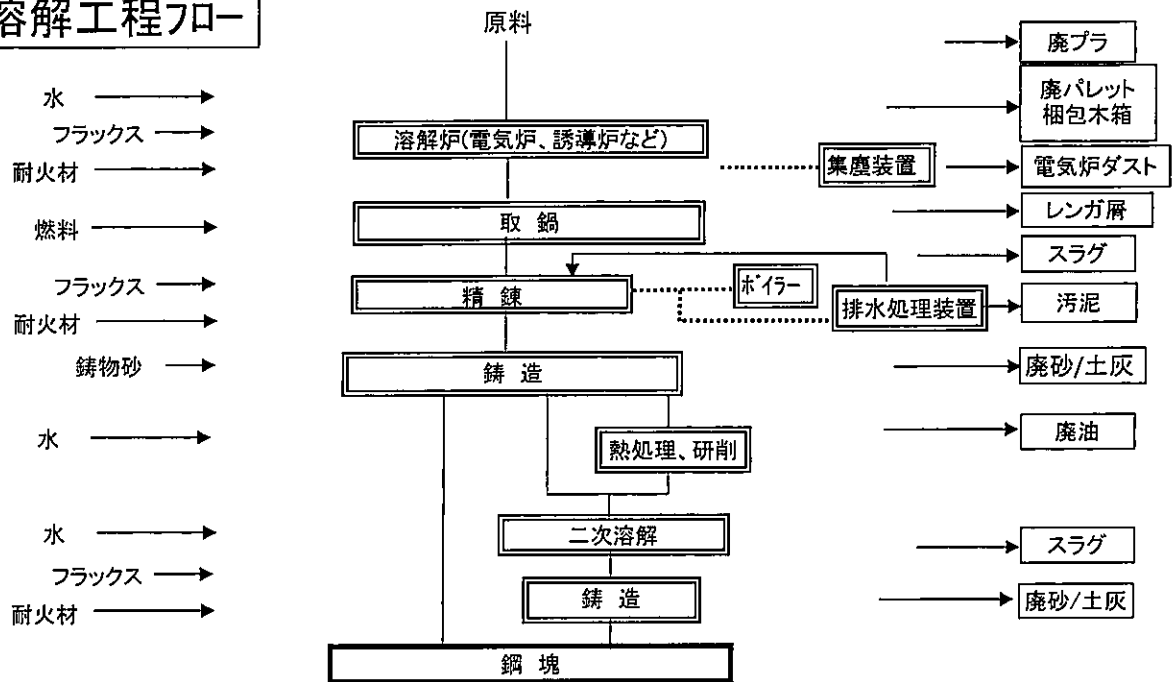
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

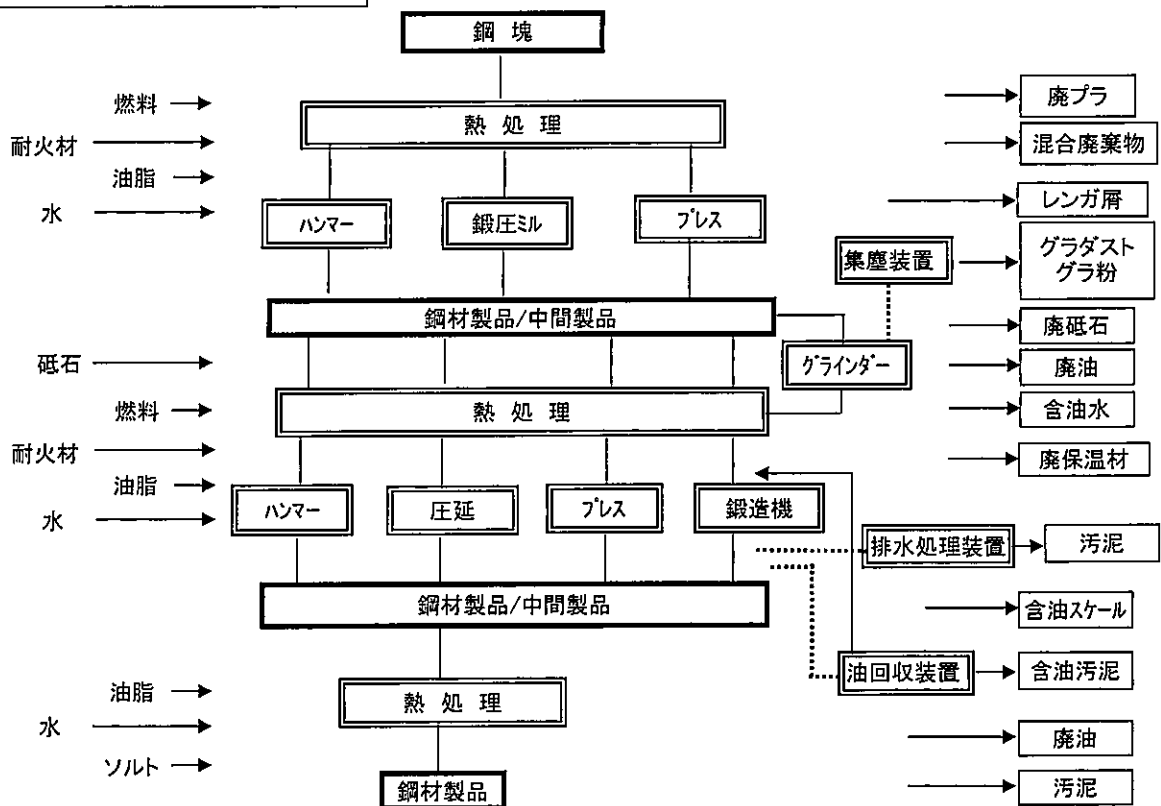
産業廃棄物の一連の処理の工程

(産業廃棄物)

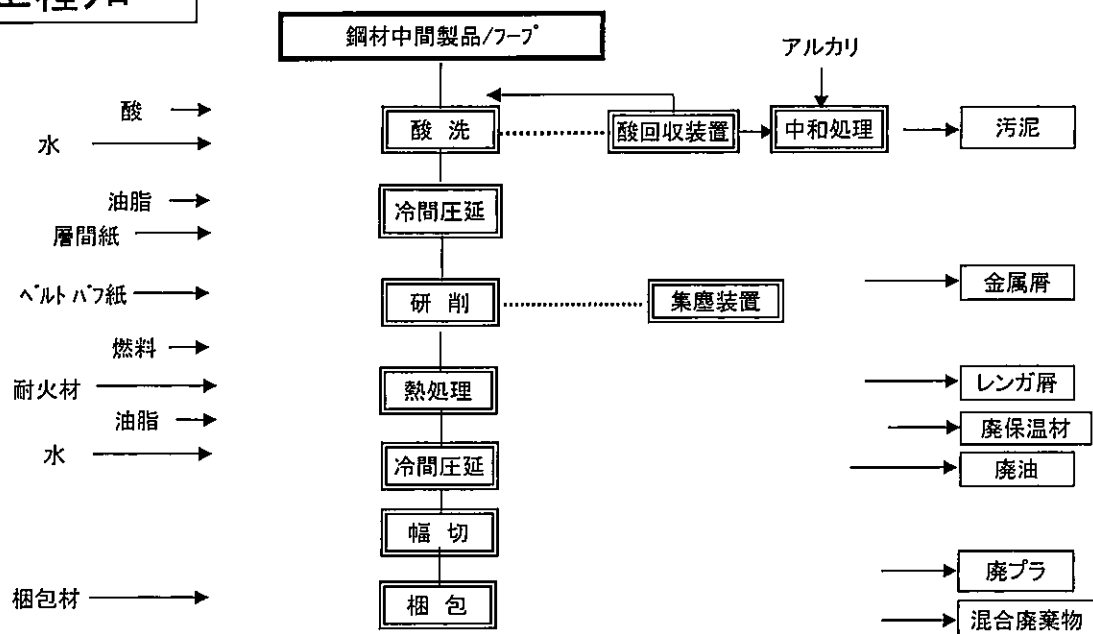
溶解工程フロー



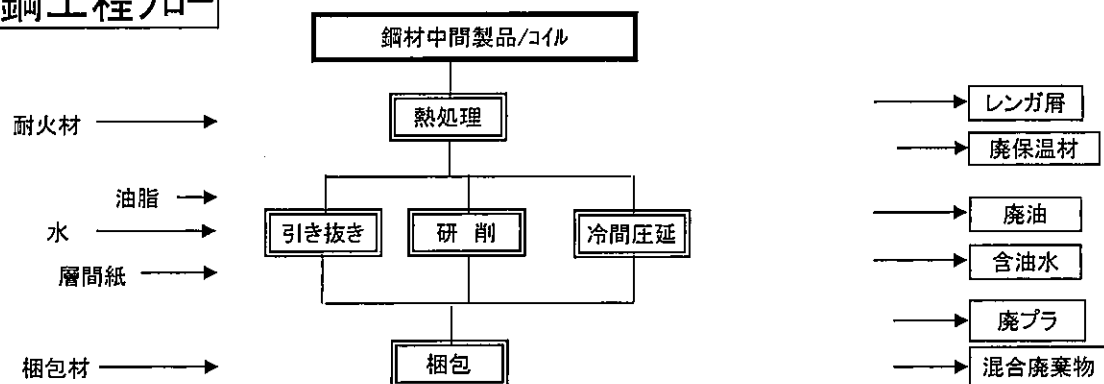
熱間加工工程フロー



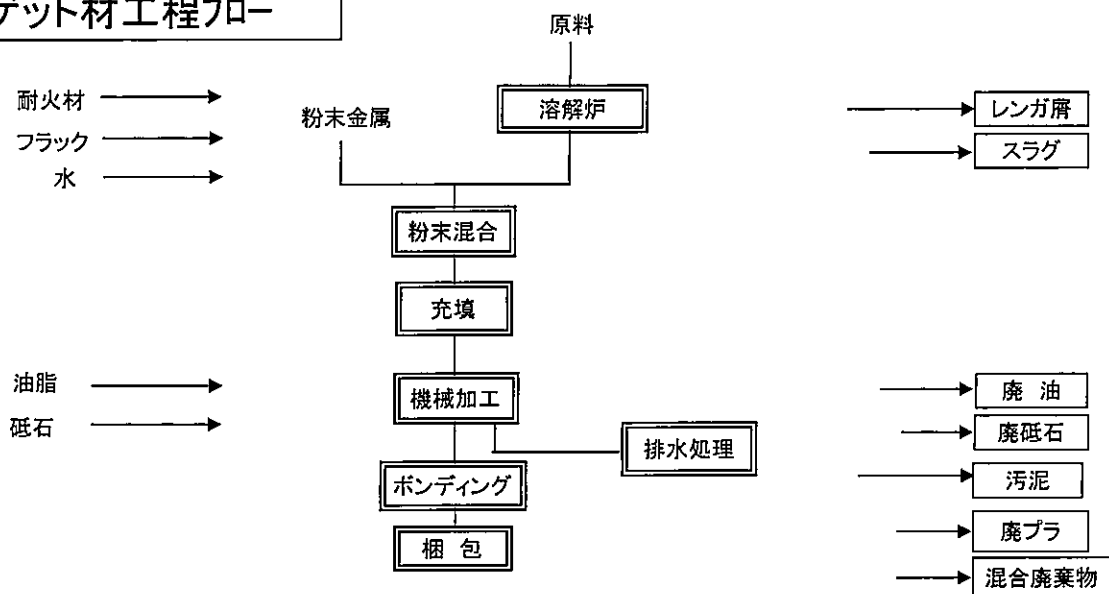
帯鋼工程フロー



磨棒鋼工程フロー



ターゲット材工程フロー

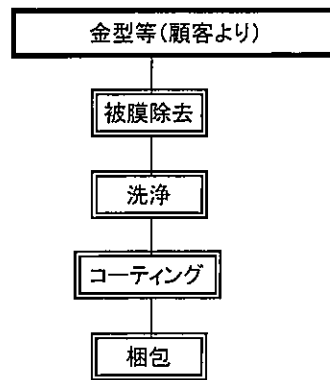


表面改質工程フロー

アルカリ →
メディア →
水 →
炭化水素系洗浄剤 →

ターゲット →

梱包材 →

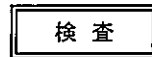


→ 廃アルカリ
→ 汚泥
→ 廃油

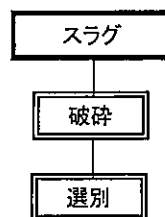
→ 混合廃棄物

検査工程フロー

検査液 →
ウェス等 →
水 →



→ 含油水
→ 混合廃棄物

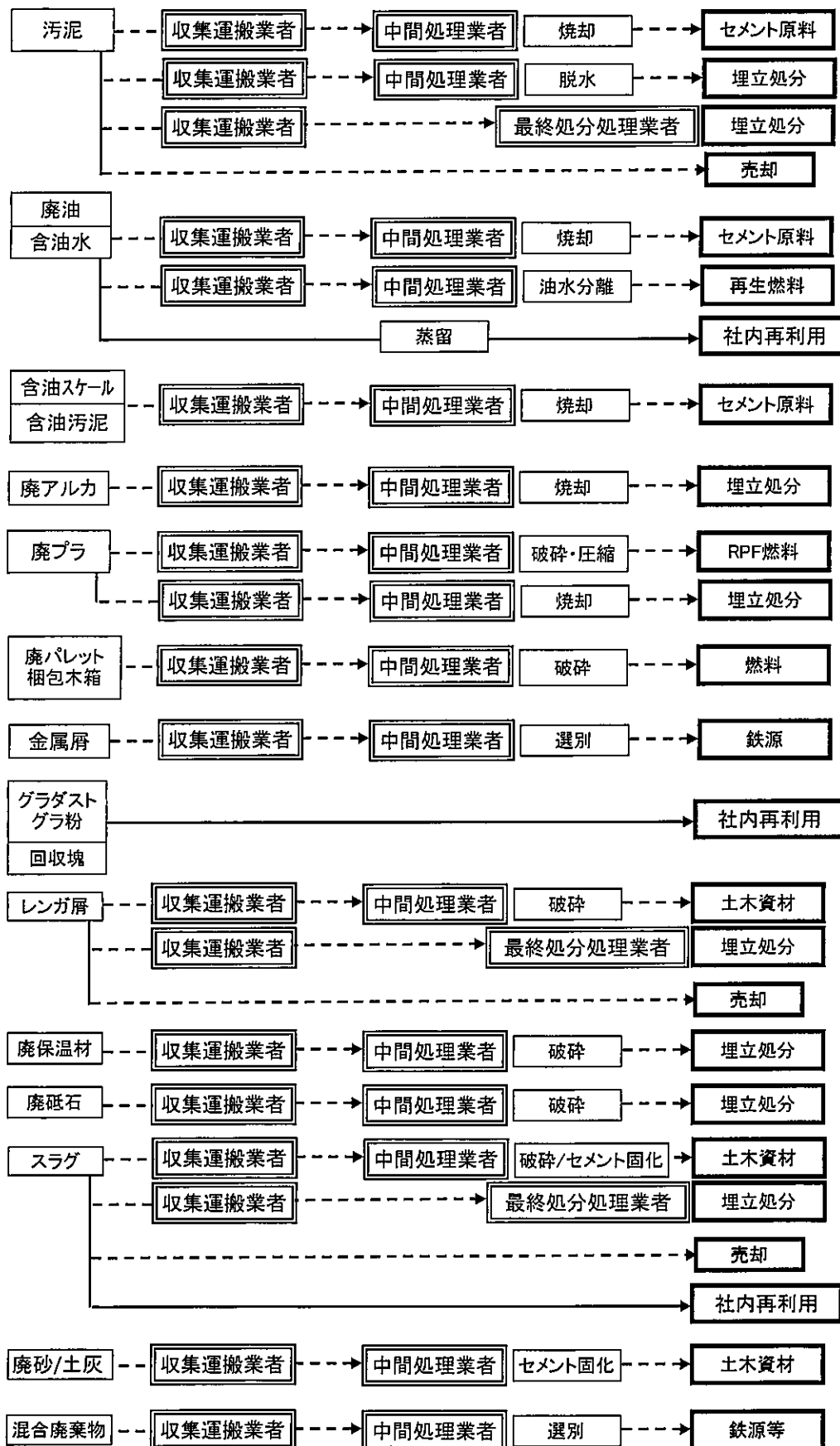
粒鉄回収工程フロー

→ 回収塊
→ スラグ

廃棄物処理フロー

-----> : 事業所外へ

□ : 再資源化

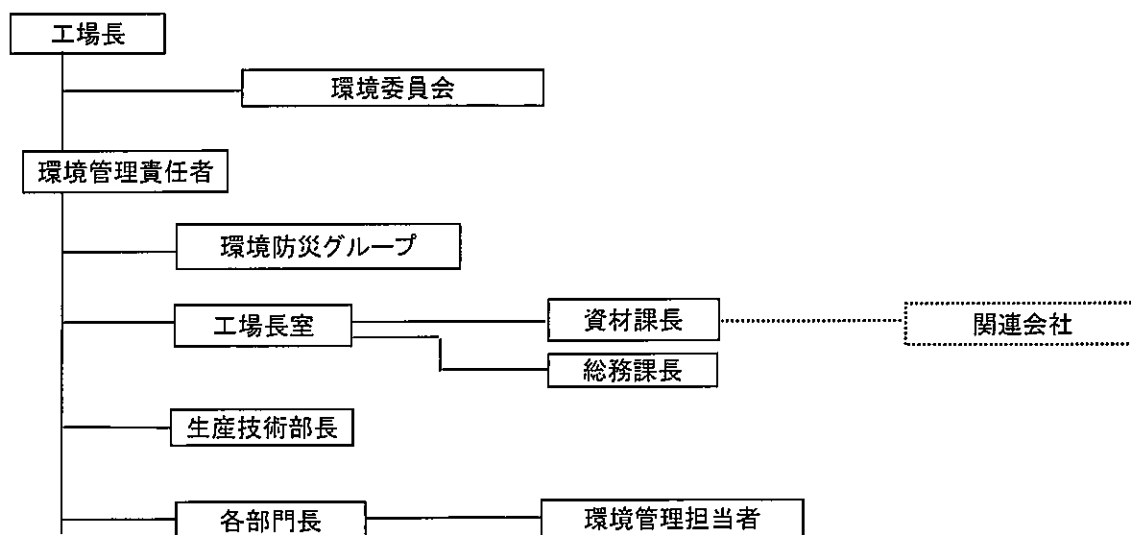


産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理組織図

総括責任者		所 属:安来工場	職・氏名:工場長 岸上 一郎
廃棄物担当部署		組織名:生産技術部環境防災グループ	職・氏名:グループ長 松島 信彦
		組織人数:5人(防災担当を含む)	
役割	環境委員会	○廃棄物処理に関する審議 廃棄物の発生抑制、再生利用、適正処理に関する審議決定 ・委員長－工場長 ・委員－関連部門長 ・事務局－生産技術部環境防災グループ	
	環境管理責任者	○廃棄物処理方針の策定 ○廃棄物管理規定の審査 ○その他廃棄物管理に関する事項の承認	
	安全環境グループ長	○廃棄物管理状況の確認と改善策の検討 ○廃棄物処理施設の運転管理状況の確認 ○監督官庁への各種届出、報告 ○社員、関連会社に対する教育、啓蒙 ○廃棄物の発生抑制、再生利用の調査、研究、開発	
	工場長室 総務課長	○苦情や問合せ等外部コミュニケーションに係る事項	
	工場長室 資材課長	○処理業者、再生業者の調査、選定 ○関連会社、処理業者との委託契約	
	生産技術部長	○廃棄物の中間処理、適正処理技術の研究、開発 ○処理施設、再生施設の検討、設置	
	各部門 環境管理担当者	○当該部門の環境管理 ○産業廃棄物、特別管理産業廃棄物管理票の交付、管理	

廃棄物管理組織



(2) 管理体制の強化

①管理体制

廃棄物管理に係わる重要事項は、環境委員会の中で審議、決定する。事務的な事項は環境防災グループで立案し、環境管理責任者の承認を得て決定する。

決定事項の周知、徹底は、関連する部門長を経由し環境管理担当者が推進している。

②管理方法

廃棄物管理に関しては、社内規定を作成し徹底するようにしている。

(3) 教育、研修

ISO14001を取得しており、環境マネジメントシステムの推進活動の中で、工場、部門ごとに教育、研修を実施している。

(4) 情報公開

総務部門を窓口として、住民から情報開示要求があった場合には、内容を精査し公開するようにしている。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類
排出量 (トン)	3565	1183	3	233
これまでに実施した取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減			

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類
排出量 (トン)	4500	1500	4	280
今後実施する予定の取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減			

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	木くず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい
排出量 (トン)	265	3461	5389	30842
これまでに実施した取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減			

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	木くず	金属くず	ガラスくず等	鉱さい
排出量 (トン)	330	5000	6800	27000
今後実施する予定の取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減			

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
排出量 (トン)	8948	130
これまでに実施した取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減	

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	がれき類	混合廃棄物
排出量 (トン)	620	160
今後実施する予定の取組	・生産効率向上による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の適正管理による廃棄物発生の抑制 ・生産材等の長寿命化による廃棄物発生の抑制 ・場内循環利用の促進による廃棄物発生の抑制 ・有価売却の推進による廃棄物量の低減	

産業廃棄物の分別に関する事項

現状

産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず等	鋳さい
分別に関する取組	・鋼種別収集の徹底	・耐火材の種別分別の徹底	・工程別分別の徹底

計画

今後分別する産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず等	鋳さい
分別に関する取組	・鋼種別収集の徹底	・耐火材の種別分別の徹底	・工程別分別の徹底

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	廃油	金属くず	鉋さい
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量(トン)	116	3,458	8,685
これまでに実施した取組	・加工くず等の金属くずの回収 ・鋼種ごとに金属くずを回収することにより溶解材料として再生 ・鉋さいを地盤強化材として再生利用 ・洗浄剤の再生機器の導入		

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	廃油	金属くず	鉋さい
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量(トン)	200	5000	3000
今後実施する予定の取組	・加工くず等の金属くずの回収 ・鋼種ごとに金属くずを回収することにより溶解材料として再生 ・鉋さいを覆土材として再生利用 ・洗浄剤の再生機器の導入		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分に関する事項

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	鉱さい
自ら埋立処分を行った産業廃棄物の量(トン)	1698	1198
これまでに実施した取組	・産業廃棄物管理型最終処分場の維持管理	

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	汚泥	鉱さい
自ら埋立処分を行う産業廃棄物の量(トン)	0	0
今後実施する予定の取組	・産業廃棄物管理型最終処分場の延命のため埋立を中断	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	金属くず
全処理委託量(トン)	1867	1067	3	233	3
優良認定処理業者への処理委託量	1867	992	3	233	3
再生利用業者への処理委託量		116		121	3
認定熱回収業者への処理委託量		950			
認定熱回収業者以外の熱回収		1		112	
これまでに実施した取組	・優良認定処理業者、現地確認等による処理業者の選定 ・定期的な現地確認 ・再生利用業者、熱回収業者の開拓				

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	金属くず
全処理委託量(トン)	4500	1300	4	280	0
優良認定処理業者への処理委託量	4500	1300	4	280	
再生利用業者への処理委託量	2000	150		160	
認定熱回収業者への処理委託量		1150			
認定熱回収業者以外の熱回収				120	
今後実施する予定の取組	・優良認定処理業者、現地確認等による処理業者の選定 ・定期的な現地確認 ・再生利用業者、熱回収業者の開拓				

現状【前年度(2020年度)実績】

産業廃棄物の種類	ガラスくず等	鋳さい	がれき類	木くず	混合廃棄物
全処理委託量(トン)	5389	20959	8948	265	130
優良認定処理業者への処理委託量	5389	586	3270	11	130
再生利用業者への処理委託量		20373	5678	265	130
認定熱回収業者への処理委託量					
認定熱回収業者以外の熱回収					
これまでに実施した取組	・優良認定処理業者、現地確認等による処理業者の選定 ・定期的な現地確認 ・再生利用業者、熱回収業者の開拓				

目標【2025年度計画】

産業廃棄物の種類	ガラスくず等	鋳さい	がれき類	木くず	混合廃棄物
全処理委託量(トン)	6800	24000	620	330	160
優良認定処理業者への処理委託量	6800	1000	620	330	160
再生利用業者への処理委託量		23000		330	160
認定熱回収業者への処理委託量					
認定熱回収業者以外の熱回収					
今後実施する予定の取組	・優良認定処理業者、現地確認等による処理業者の選定 ・定期的な現地確認 ・再生利用業者、熱回収業者の開拓				